

国語 (現代文)

早稲田大学 商学部 1/4

<総括>

出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間	60分
-----	-----------------	------	-----

設問は、昨年度と同様に、傍線部説明と空欄補充（抜き出しを含む）が中心。例年、短めの記述問題が出題されてきたが、昨年度以降、記述問題は出題されていない。問四が解答対象から外されたため、設問数は実質的には2問減った。今年度は専門性の高い社会論が出題されたが、内容を読み取ることは容易ではなく、正解を選び難い設問が増えたため、戸惑った受験生が多かっただろう。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	若林幹夫『ノスタルジアとユートピア』（2022年、岩波書店）の第4章「〈進歩〉の中のユートピアとノスタルジア」の一節。
頻出度合 ・的中等	この著者の文章は入試でよく出題される。
分量 前年比較	分量（減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加） 約4600字。昨年より約200字減。
難易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化）

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
□	社会論	問一	記述	標準	漢字の書き取り。 傍線部内容説明。設問に「『世＝界の体制』『社会の地形』という表現に注意して」とあるが、出題された本文箇所では説明が十分なされていない筆者独特の表現であるため、正解を積極的に選ぶことが難しい。 傍線部理由説明。傍線部の「奇妙」に結びつくのはニしかない。ただし正解が設問に対応しているとは言い難い。 ※大学より「試験前に解答用紙に不備があることが判明したため、解答対象から外しました。」との発表がありました。 傍線部内容説明。傍線部直後の「〈他の空間〉」という表現をふまえて「ユートピア」の語義を説明したニを選ぶ。 傍線部理由説明。「ナショナリズム」と「ユートピア」や「ユートピア文学」との共通点を考える。 抜き出し。「それぞれ兵士たちが何を求めたからか」が問われているが、出題された本文箇所では傍線部直前の「スイス人に特有の病として発見されたノスタルジア」に関する説明が十分なされていないため、傍線部の意味が分かりにくく、対になる正解箇所を選ぶことが非常に難しい。とくにYについては、複数の箇所が候補になりうる。 空欄補充。直後の「近代における」との対比から考える。 傍線部説明。傍線部は「現実」の説明。第1段落末の一文をふまえると、「現実」の説明であるニが誤りとは言い難く、正解を選ぶことが非常に難しい。 傍線部内容説明。最終段落の内容をふまえたニを選ぶ。
		問二	マーク	やや難	
		問三	マーク	やや難	
		問四	マーク	標準	
		問五	マーク	やや難	
		問六	マーク	難	
		問七	記述	やや易	
		問八	マーク	難	
		問九	マーク	やや難	
		問十	マーク	難	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

さまざまなジャンルの評論を読み、筆者の表現意図を考えながら文脈をたどっていくことが大切である。筋道立てて正解を導き出す力を培うとともに、多様な設問形式に触れ、選択肢を比較して柔軟に対応する力を養うことが肝要である。短い記述問題にも取り組んでおこう。漢字や語彙の学習も怠らないようにしよう。

国語 (古文)

早稲田大学 商学部 3/4

<総括>

出題数

現代文1題・古文1題・漢文1題

試験時間

60分

古文の学力を広範囲にわたって問う出題だった。難易度は例年通りだったが、昨年度より解答数が1つ減った。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『発心集』(鴨長明)
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所も他大学で出題されたことがある。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 約1430字。昨年より約150字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
二	説話	問十一				
		A	マーク	標準	語句の空欄補充 (直前の「このこと」の指示内容に注意)。	
		B	マーク	やや易	語句の空欄補充。	
		問十二	マーク	やや易	内容説明 (指示語「こ」の内容として適切なものを選ぶ)。	
		問十三	記述	易	空欄補充 (助動詞「ぬ」を活用させる。直前の「こそ」に注意)。	
		問十四	マーク	標準	理由説明 (盗人の発言の後半に注目)。	
		問十五	マーク	やや易	理由説明 (帝の寝所に盗人が入った理由を選ぶ)。	
		問十六				
		D	マーク	やや易	空欄補充。	
		E	マーク	やや易	空欄補充。	
		問十七				
(a)	マーク	易	人物判定。			
(b)	マーク	易	人物判定。			

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文は、基礎知識を確実に身につけた上で、文章を正確に読み解く力を養っておくこと。和歌の学習も怠らないこと。

国語 (漢文)

早稲田大学 商学部 4/4

<総括>

出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間	60分
漢文は独立した問題として散文が出題された。設問数は昨年度と同様4題であった。2年連続出題されなかった返り点の問題が、今年度は出題された。一方で解釈問題は出題されなかった。			

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	愈樾『右台仙館筆記』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 143字。昨年より103字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	問十八	マーク	やや難	空欄補充の問題。空欄直後の内容と、その後の「又」傍線部1の内容に着目する。
		問十九	マーク	標準	読み方の問題。「無」「可」の用法に注意し、文脈から全体の読み方を確定する。
		問二十	マーク	標準	返り点の問題。直前の「従我去」に続くことに注意し、「不富貴」が「不憂」の目的語となることを捉える。
		問二十一	マーク	やや易	内容合致の問題。本文を正確に読み、選択肢を吟味する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本句形、重要単語、漢詩の知識など、まずは漢文の基礎事項について確実に習熟する必要がある。その上で、趣旨や文脈の流れを正確に捉えられるよう、読解力の養成に努めることが重要である。